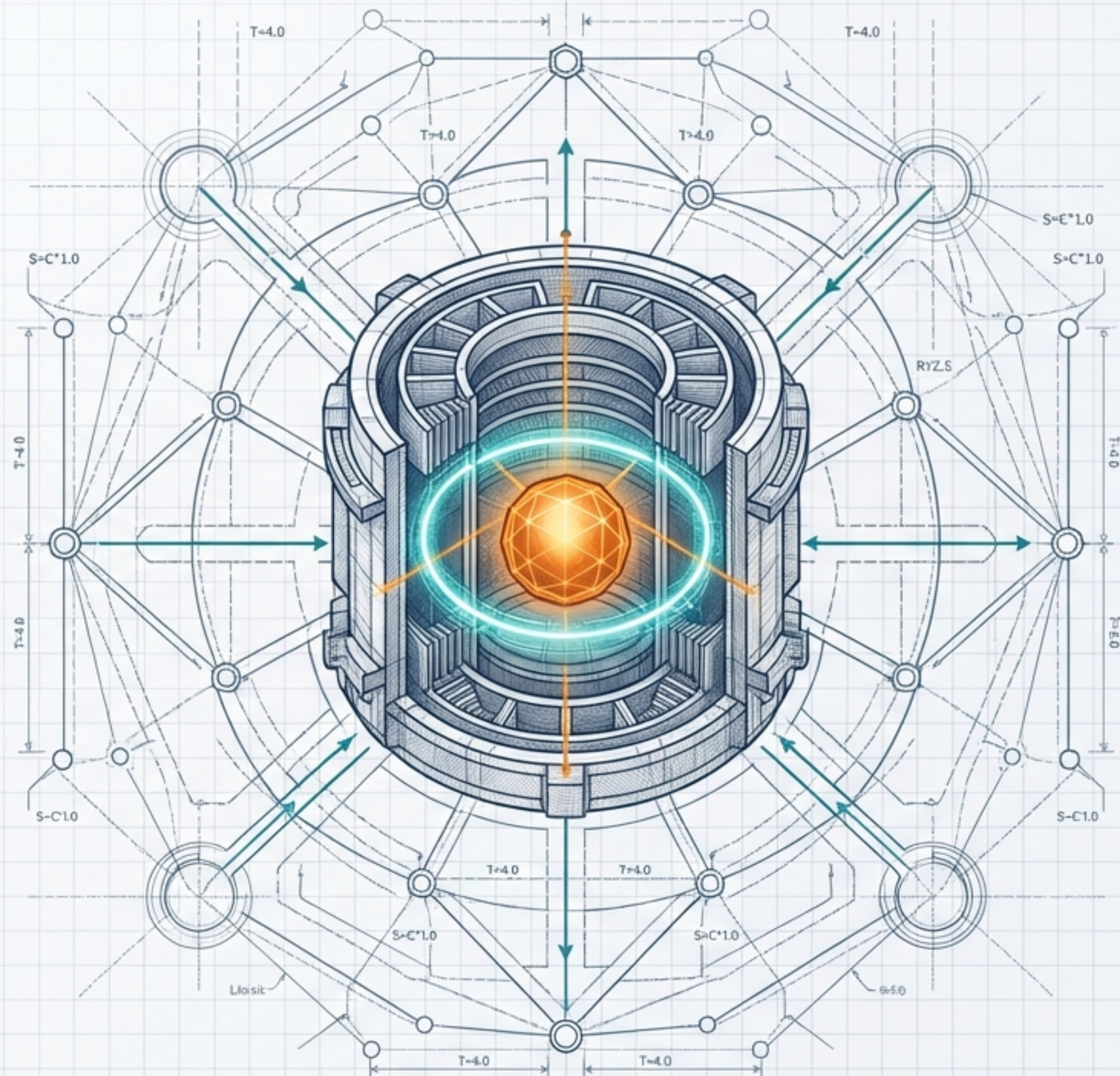


接続対価社会の 「摩擦」を 安全側に倒す設計

AI時代の社会構造安定化原理

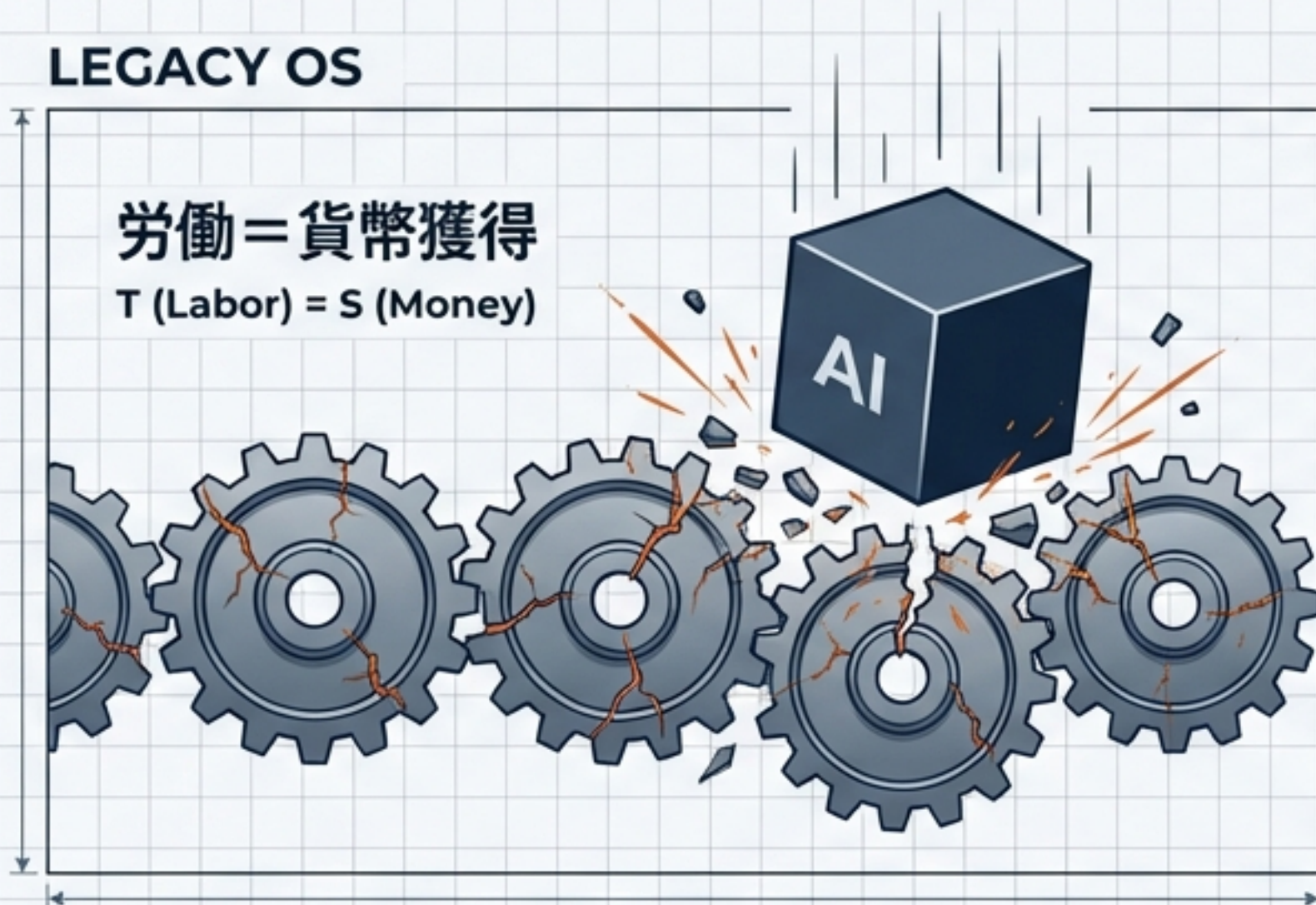


中川マスター | Nakagawa Structural OS

崩壊する「貨幣限界」と旧OSの限界

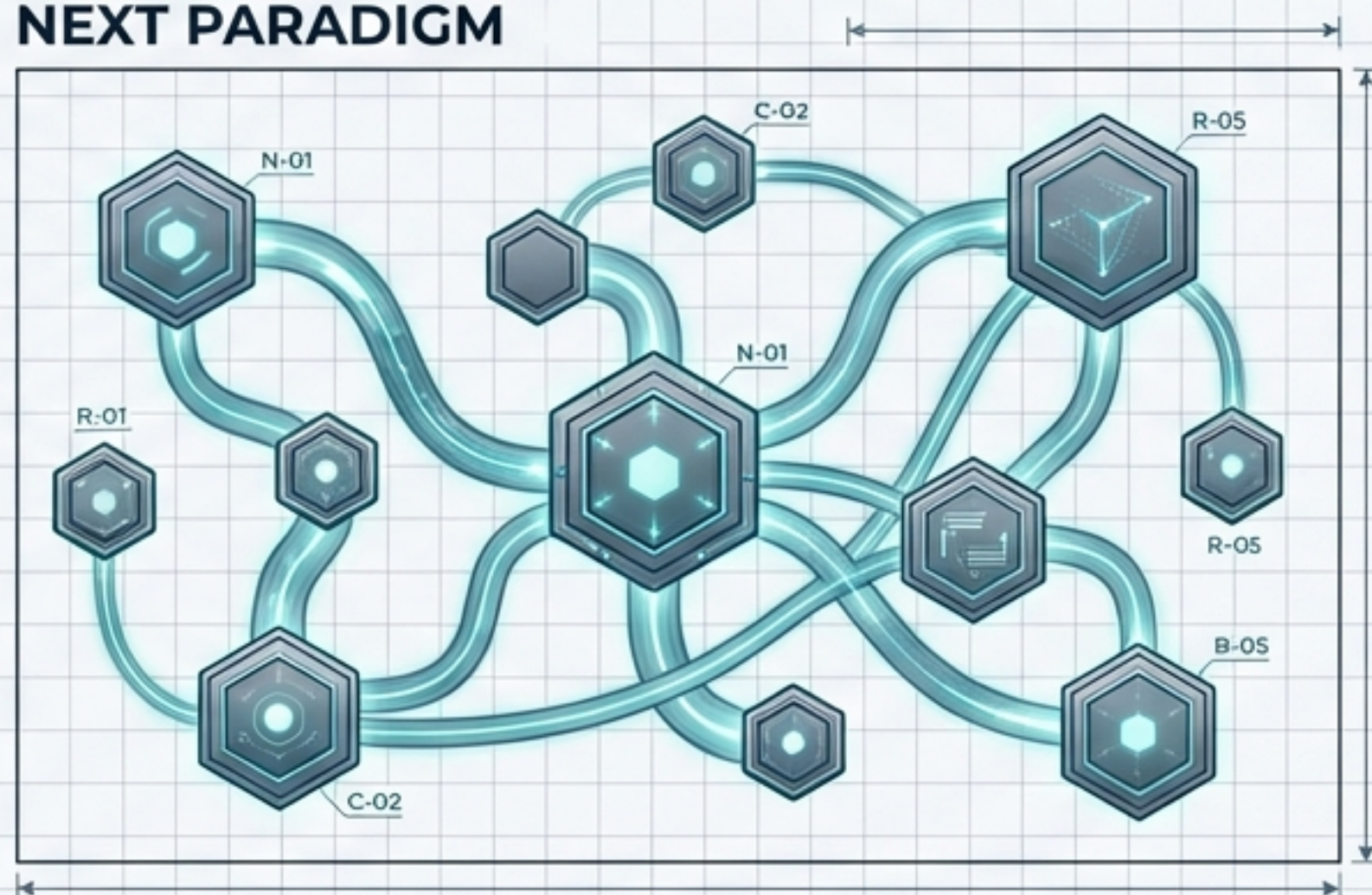
AIによる労働需要の縮小により、旧来の「労働＝貨幣獲得」という直線的な因果が崩壊する。これは一時的な混乱ではなく、貨幣社会そのものの制度的必然である。

LEGACY OS



支配と強制を前提とした直線構造。消費と流通の停滞。

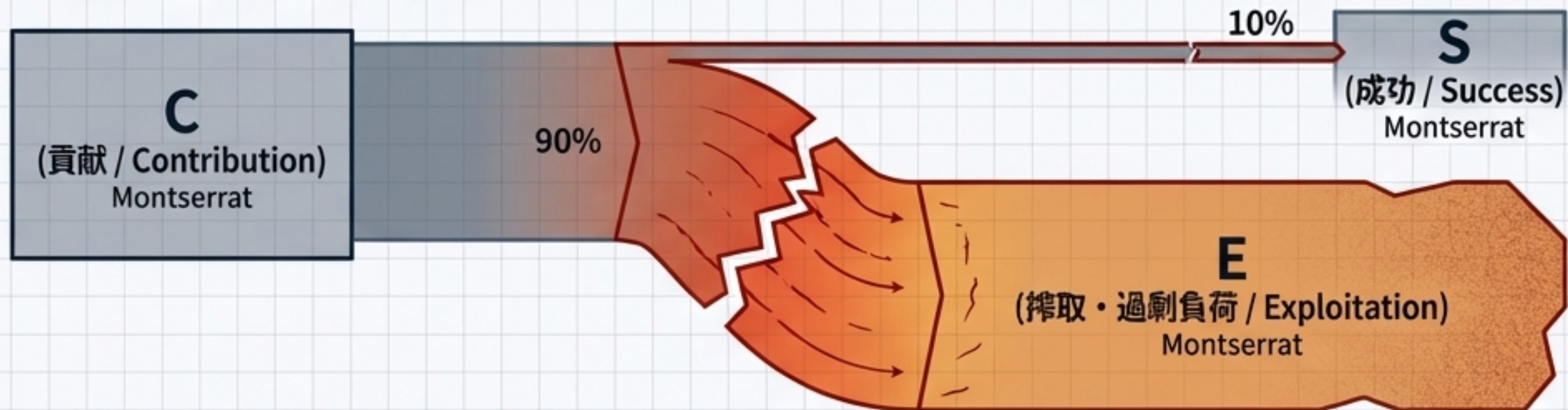
NEXT PARADIGM



価値の源泉は「労働」から「接続」へ移行する。

文明の評価軸を書き換える：暗黒方程式 vs. 照応方程式

暗黒方程式 (Dark Equation)

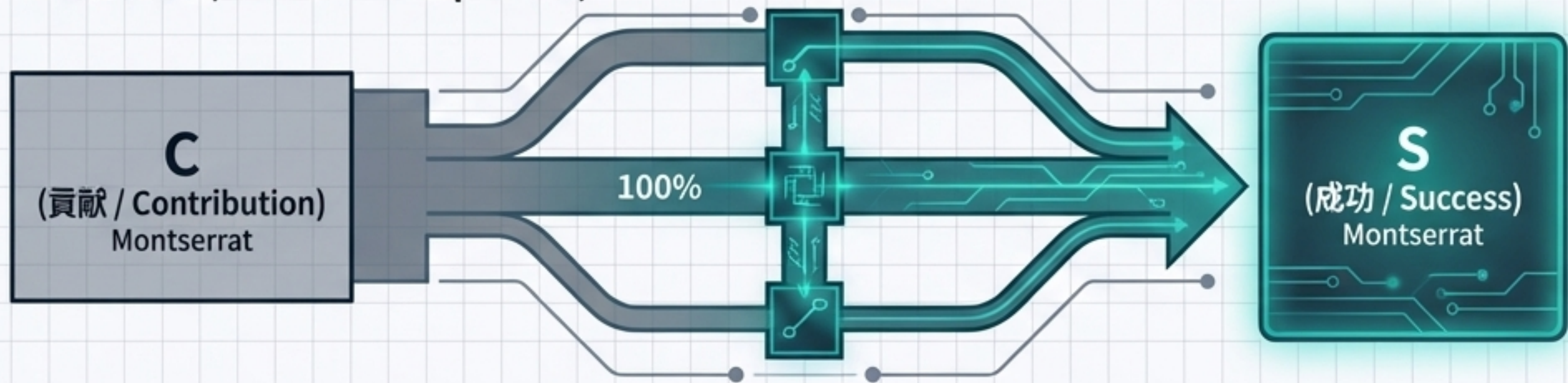


$$S = 0.1C + 0.9E$$

(暗黒方程式)

民意基準や旧来の摩擦が搾取(E)を増幅し、貢献(C)を消費する。

照応方程式 (Resonance Equation)



$$S = C \times 1.0$$

(接続報酬)

健全な摩擦によって搾取を排除し、貢献をそのまま成功へと変換する。

次なる基盤：「接続対価社会」の到来

価値は貨幣という「媒体」に保存されるのではなく、
個と個、組織と社会の「接続の密度と質」そのものに宿る。

1. 信頼資本 (Trust Capital)

契約ではなく、関係性の蓄積から生じる永続的
資本。

Trust Capital

2. 合意の記憶 (Memory of Agreement)

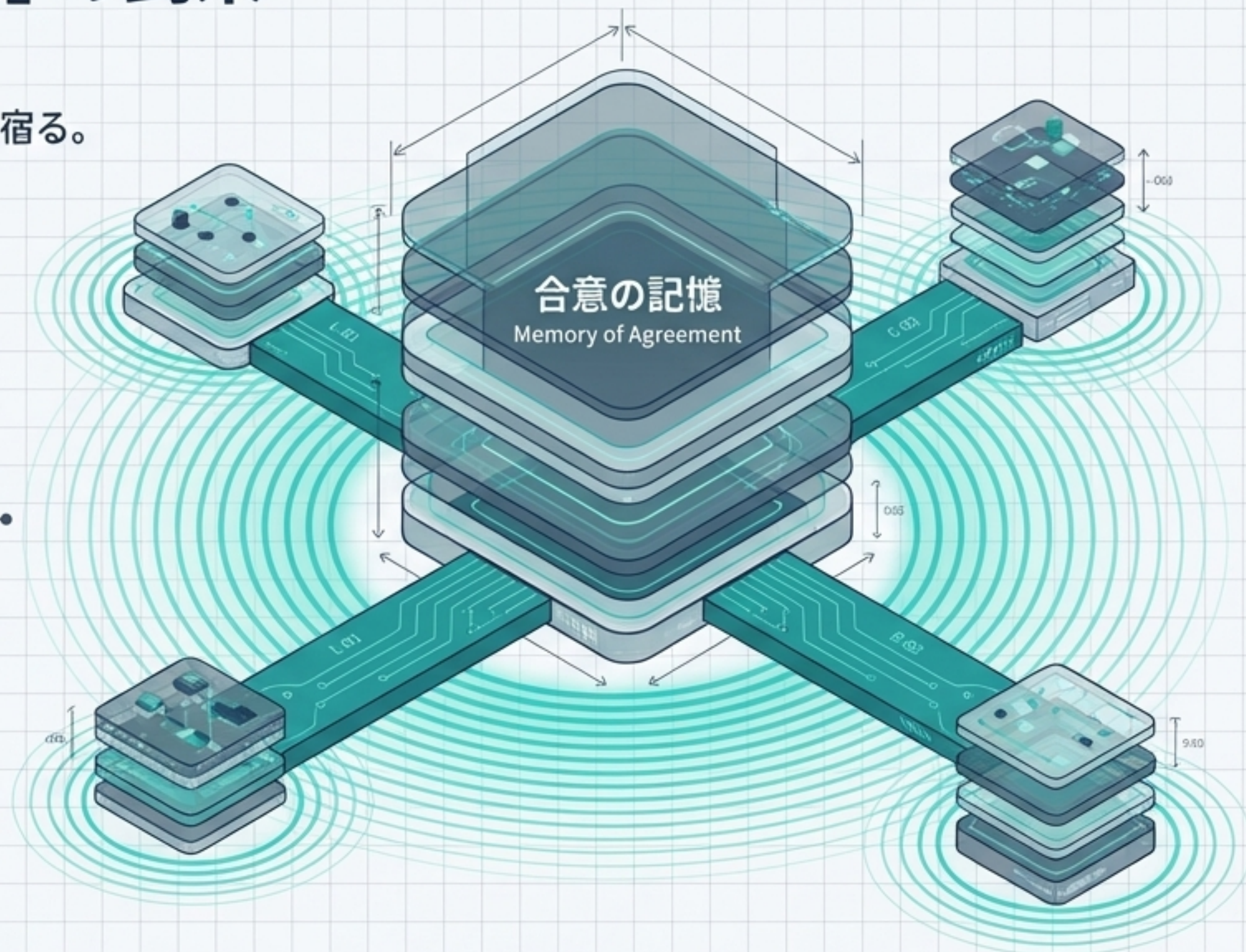
過去の決定や協働の履歴を保存し、未来の摩擦
を減らす構造的資産。

Memory of Agreement

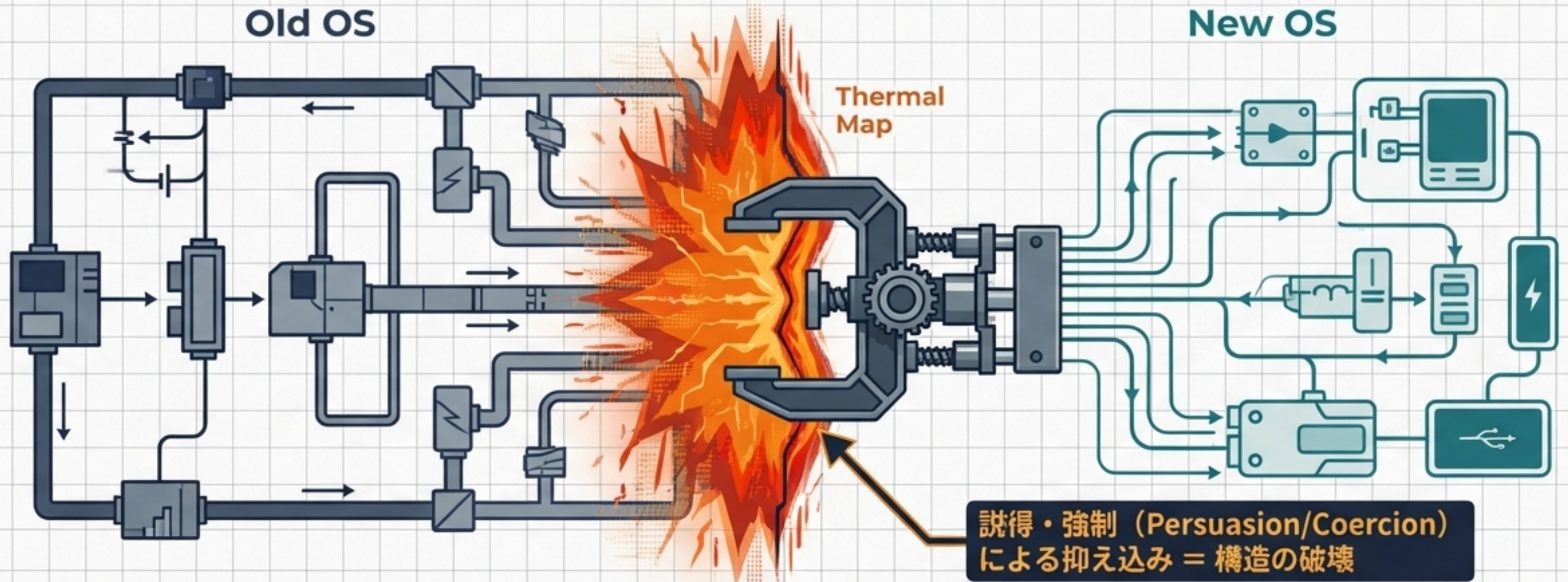
3. 共鳴市場 (Resonance Market)

説得や強制ではなく、価値関数のベクトルが一
致した時にのみ引力が発生する新たな市場。

Resonance Market



移行期における「構造的摩擦」の必然性

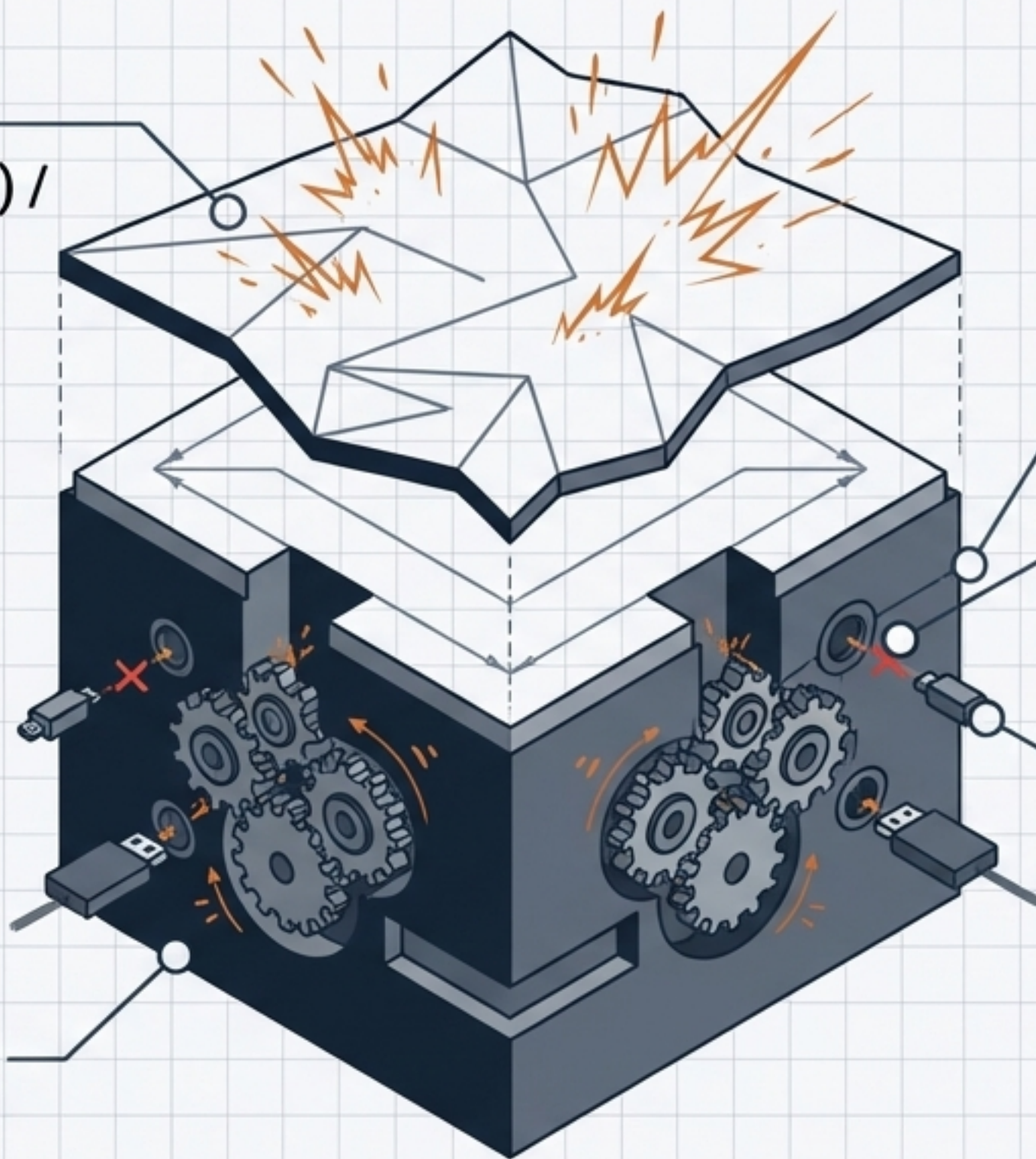


パラダイムが移行する際、**炎上、相互不信、硬直**といった「摩擦」が急増する。旧社会はこれを「説得」や「強制」で抑え込もうとするが、それは**構造を破壊する行為**である。

摩擦は個人の性格や道徳の問題ではない。異なるOS間の前提が衝突する「**物理的なエネルギー**」である。

「構造的摩擦」の解剖学

感情的対立
(Emotional Conflict) /
炎上 (Flaming)
Montserrat SemiBold



構造的要因
(Structural Causes)
Montserrat SemiBold

1. 語彙の不一致
(Vocabulary Mismatch)

同じ言葉でも異なる定義・
OSで解釈されている。

2. 境界・役割の混同
(Boundary Confusion)

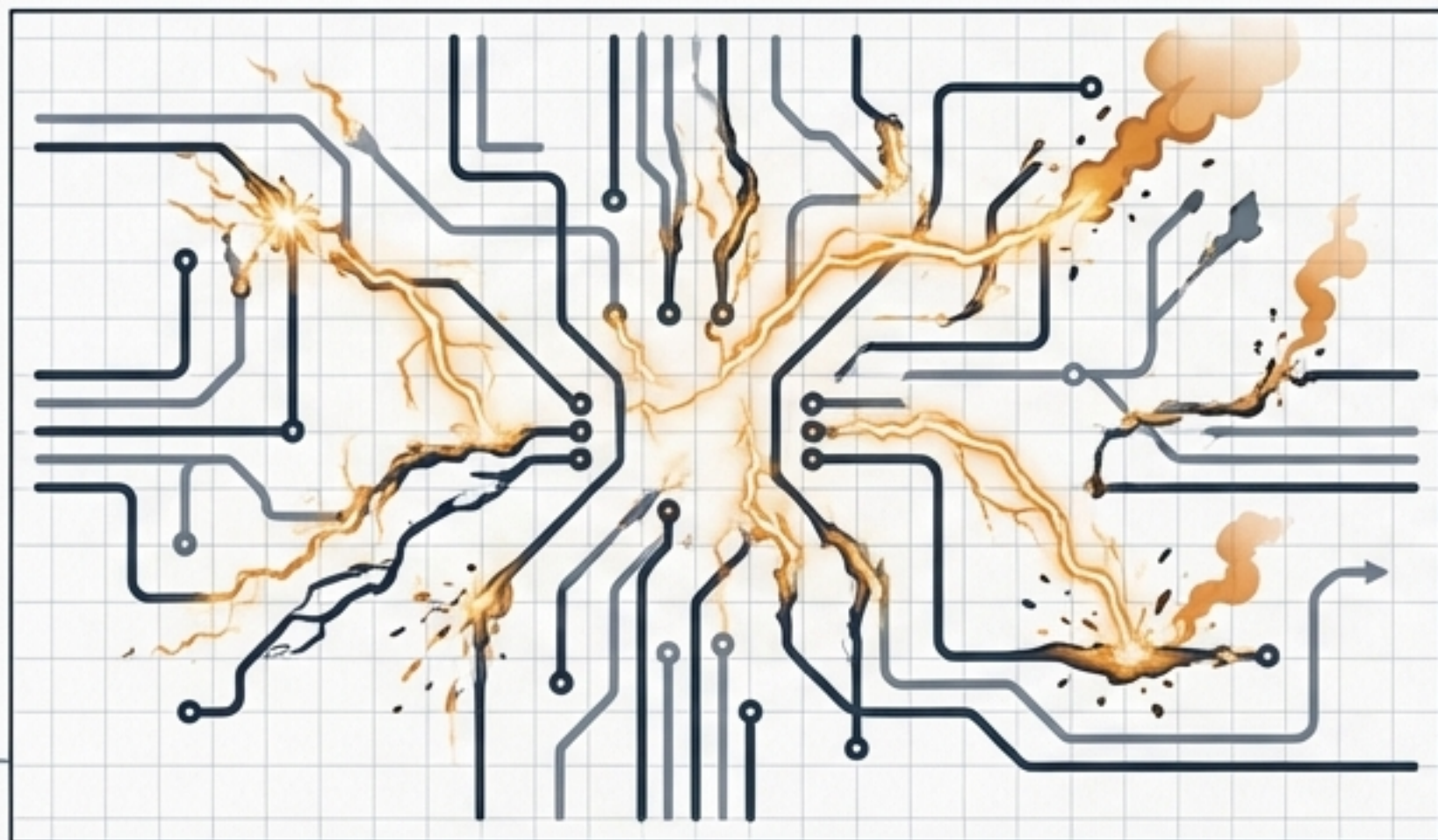
責任の起点と終点が不確化・
二重化している。

3. 前提のズレ
(Premise Misalignment)

価値関数が整合していない
状態での無理な接続。

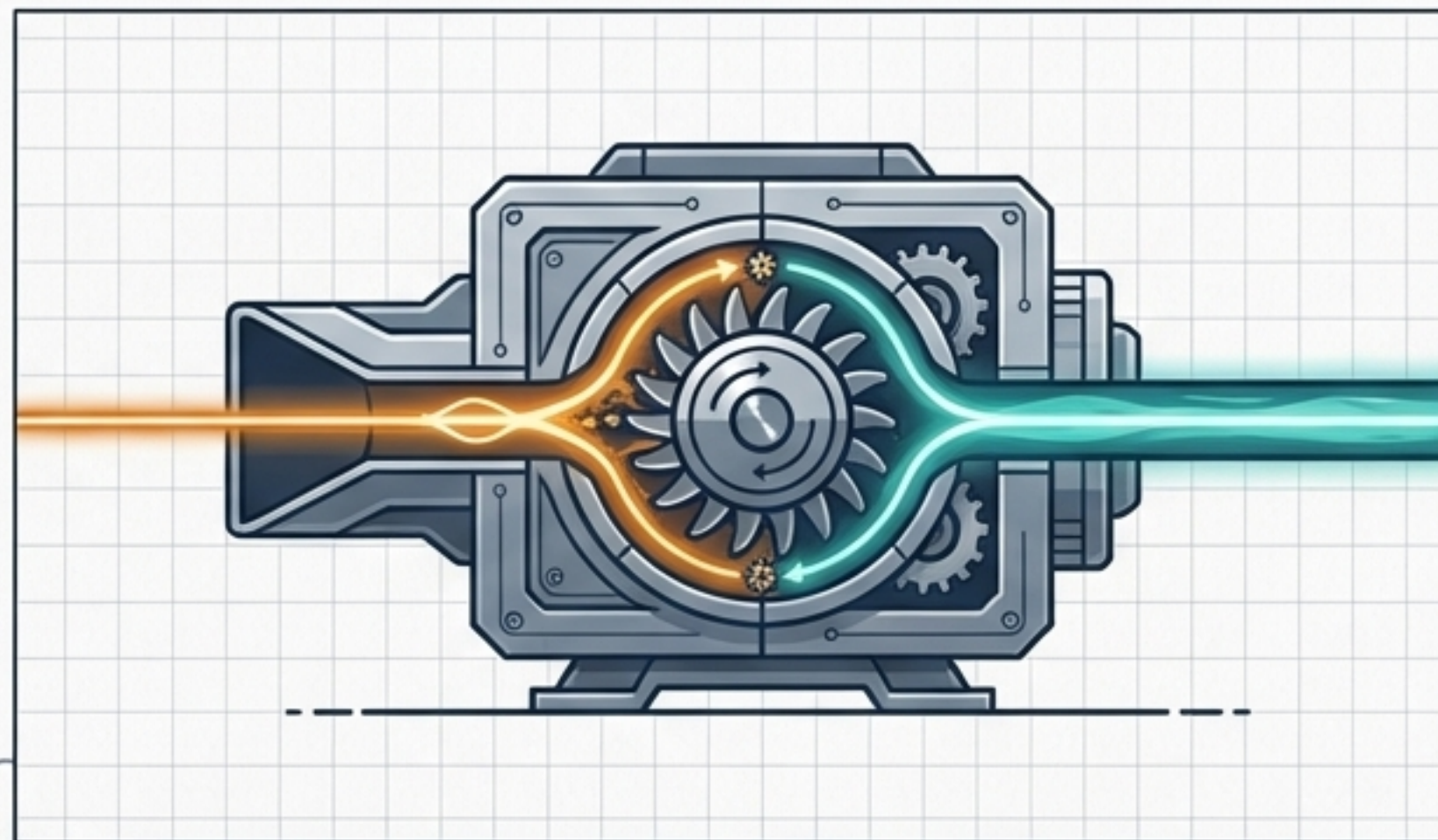
摩擦は敵ではない。変換すべき「エネルギー」である

完全な無摩擦（ゼロ摩擦）は、同調圧力と監視社会を生む。
成長と多様性には一定の負荷が不可欠である。



有害な摩擦 ($S=0.1C+0.9E$)

恣意的な評価、不透明な承認、無意味な競争。
エネルギーを奪う「搾取」。

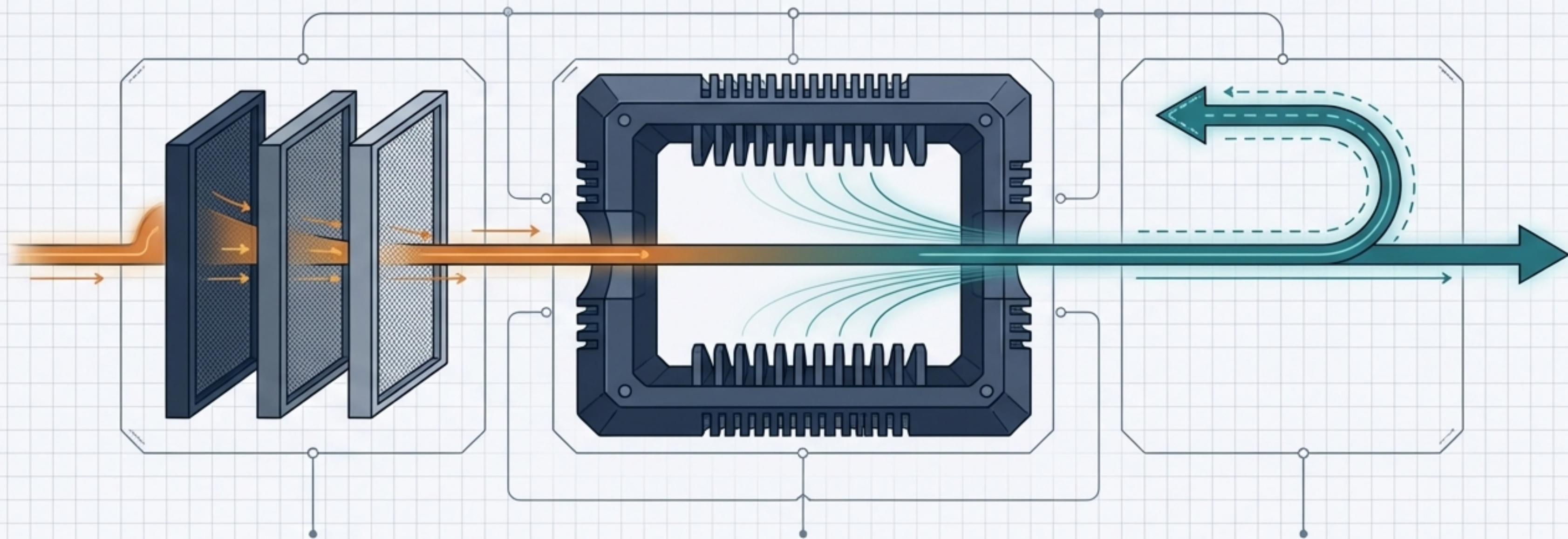


健全な負荷 ($S=C\times 1.0$)

合意形成のための対話、専門的なピアレビュー、長期リスク評価。純度を高める「エネルギー」。

摩擦の安全設計アーキテクチャ：T / S / R 原理

摩擦エネルギーを破壊から秩序へと変換するための、最小十分の静かなる工学。人間とAIの相互運用を整流する中核原理。



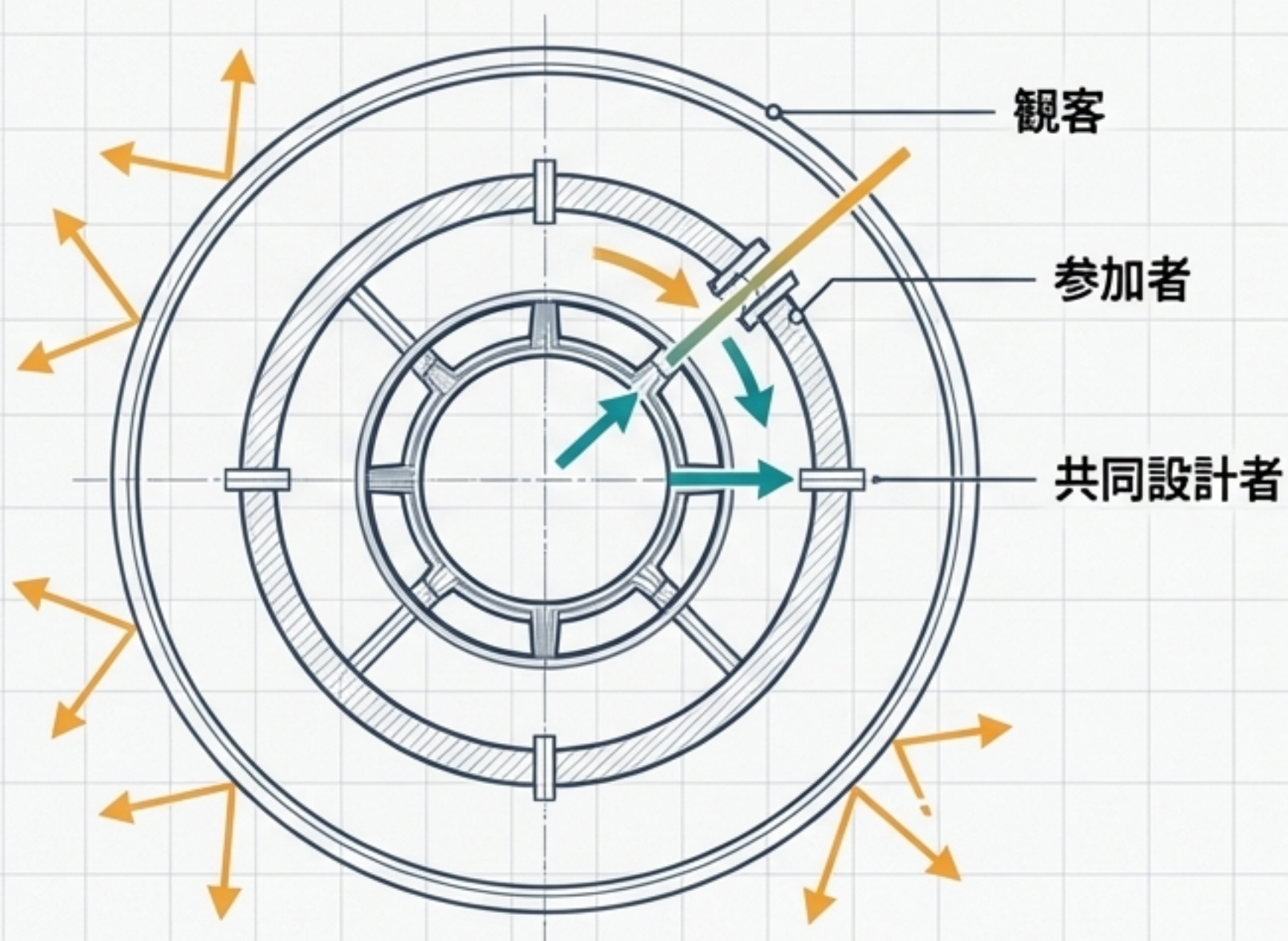
[T] 閾値 (Threshold)
Montserrat SemiBold

[S] 沈黙 (Silence)

[R] 可逆性 (Reversibility)

原理 1：閾値 (Threshold) —— 接触と境界の設計

不用意な高圧接触を避け、関係性の「接触角」を制御するフィルター機構。



レイヤ化された参加 (Layered Participation)

全員に即座のフルアクセスを与えない。
「観客 → 参加者 → 共同設計者」と
関与の深さを段階化する。

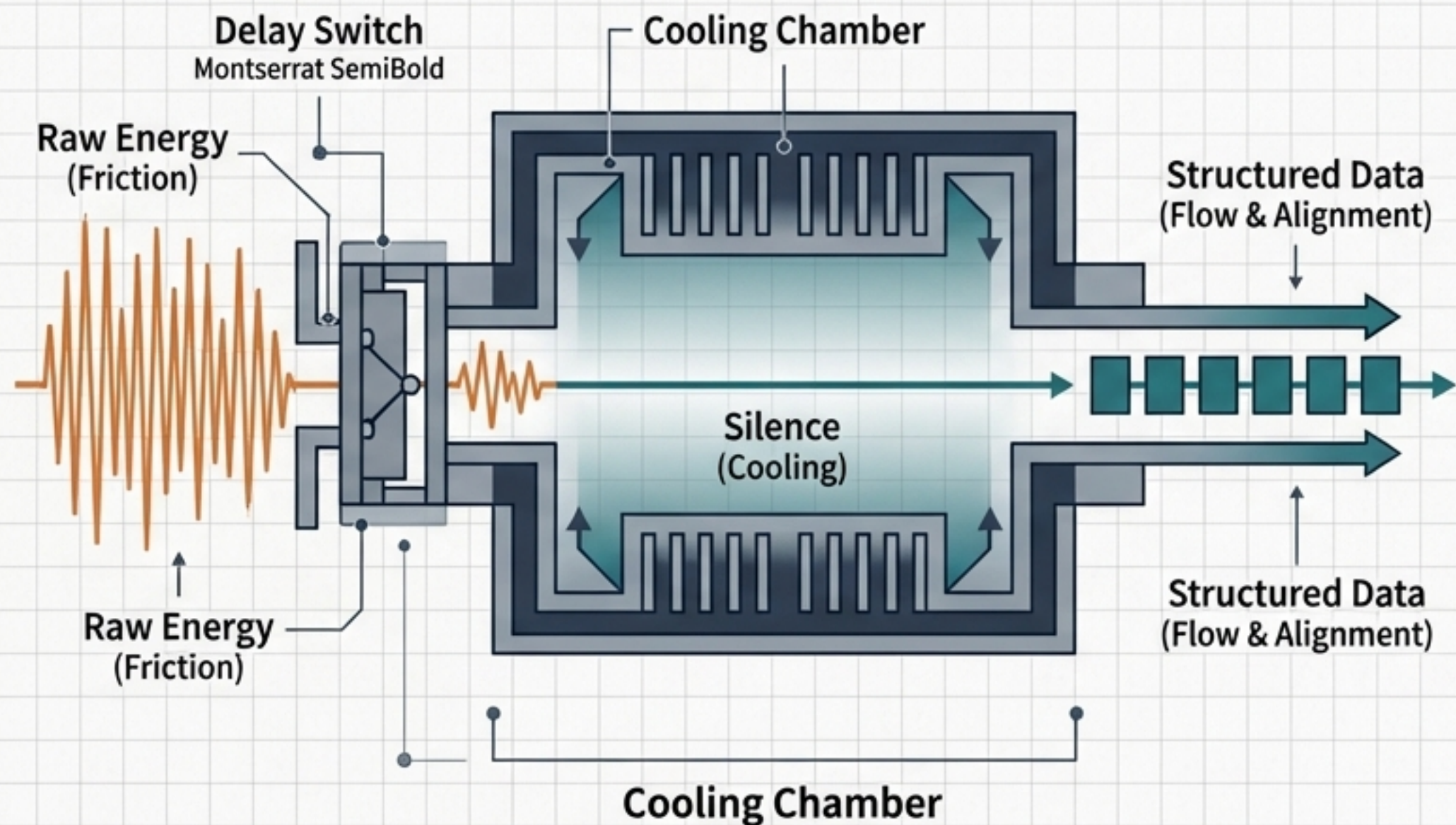
保護的バッファ (Protective Buffer)

新規参加者や異なる価値観に対し、
翻訳装置 (専門語 ↔ 一般語) を常設し、
直接的な衝突を防ぐ。

原理 2：沈黙（Silence） — 内的編纂の冷却窓

沈黙は隠蔽や拒否ではない。反応の連鎖を断ち切り、内部で因果を再構築するための「構造的呼吸」である。

Noto Sans JP Medium



冷却窓の確保（Cooling Window）

炎上時や対立時に発火を止め、
非同期での論点整理を強制する。

Noto Sans JP Regular

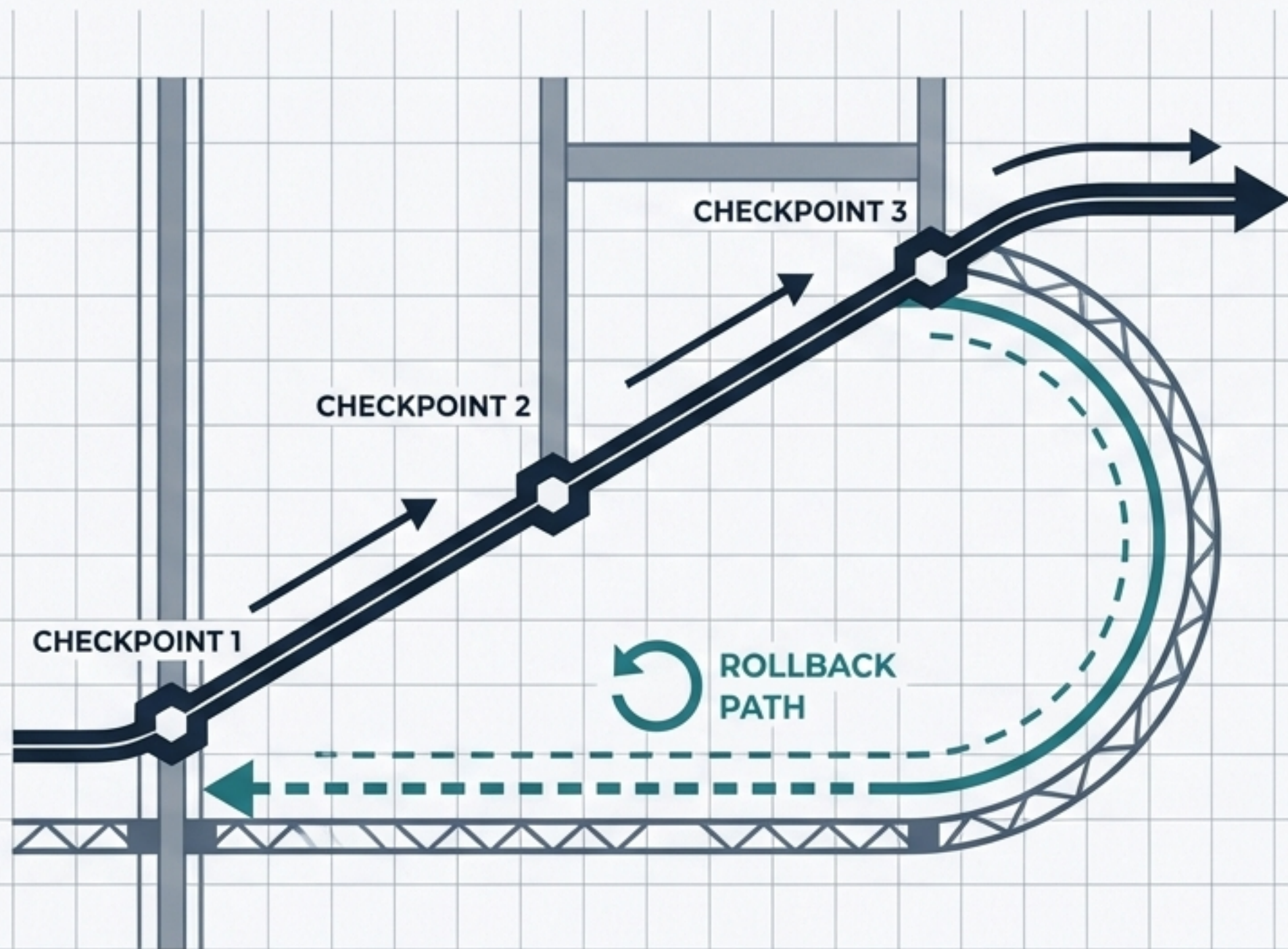
編纂の保障（Recompilation）

即時応答（反応主義）を止め、
公開ログと非公開の編纂ログを分離。
問いと沈黙の往復が合意の深度を生む。

Noto Sans JP Regular

原理 3：可逆性（Reversibility） — 撤回と探索の保障

決定を「戻せる構造・試せる構造」を前提化すること。致命的な失敗の恐怖を取り除き、継続的な探索の勇気を守る。



ロールバックの常設 (Permanent Rollback)

初期導入は必ず取り消し可能に設計し、
期限付き合意と再審査を義務化する。

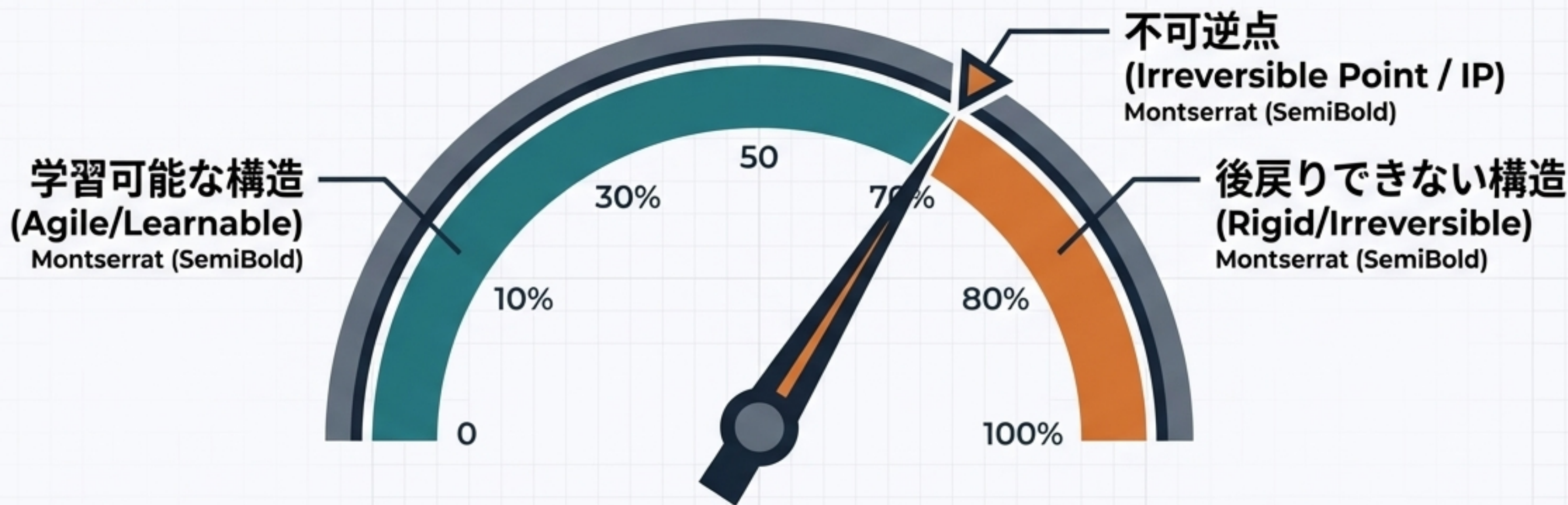
出口の保証 (Exit Guarantee)

データ移行や契約解除といった「撤退ト
リガー」をあらかじめ設計に組み込む。

文明の寿命を測る指標：リバーサル・コスト（RC）

組織や文明はドラマチックな衝突で終わるのではない。「巻き戻し可能性」が失われた時に静かに崩壊する。

Noto Sans JP (Regular)



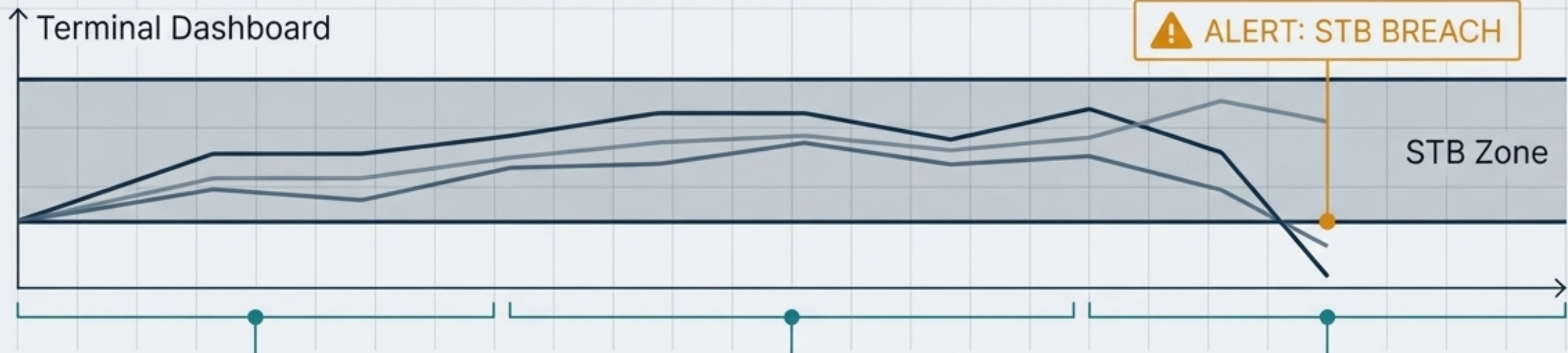
- **RC (Reversal Cost)** : 誤りを安全に巻き戻すために必要な労力とコスト。
- **CEA (因果編集適応性 / Causal Editing Adaptability)** : 構造を壊さずに変えられる能力。
- **RC**が限界を超え、**CEA**が減衰した地点が「**不可逆点**」となる。

運用パラダイムの診断マトリクス

	Legacy OS	Nakagawa OS
摩擦への対処 (Handling Friction)	説得・強制・同調圧力	閾値制御・差分公開 (Difference Disclosure)
エラーの処遇 (Response to Errors)	罰・制裁による潜伏	ロールバックと 逸脱レヅジャへの記録
合意の速度 (Decision Speed)	即時反応主義 (Fast/Reactive)	意図的な沈黙・非同期 (Deliberate Silence)
成功の指標 (Metric of Success)	貨幣と支配力の蓄積	接続品質と信頼資本 (Quality of Connection)

構造的恒常性の維持：公開監査束と許容帯域

信頼は盲信ではなく、観測可能な記録の束によって担保される。



STB（整合閾値）

Structural Tolerance Band

構造的矛盾の伝播を防ぐ動的な境界条件。過剰な介入を防ぐための「遊び」の空間。

安定化指数 S

Stability Index

$S = U \times R \times H$ （U=理解可能性, R=責任特定可能性, H=履歴公開度）。

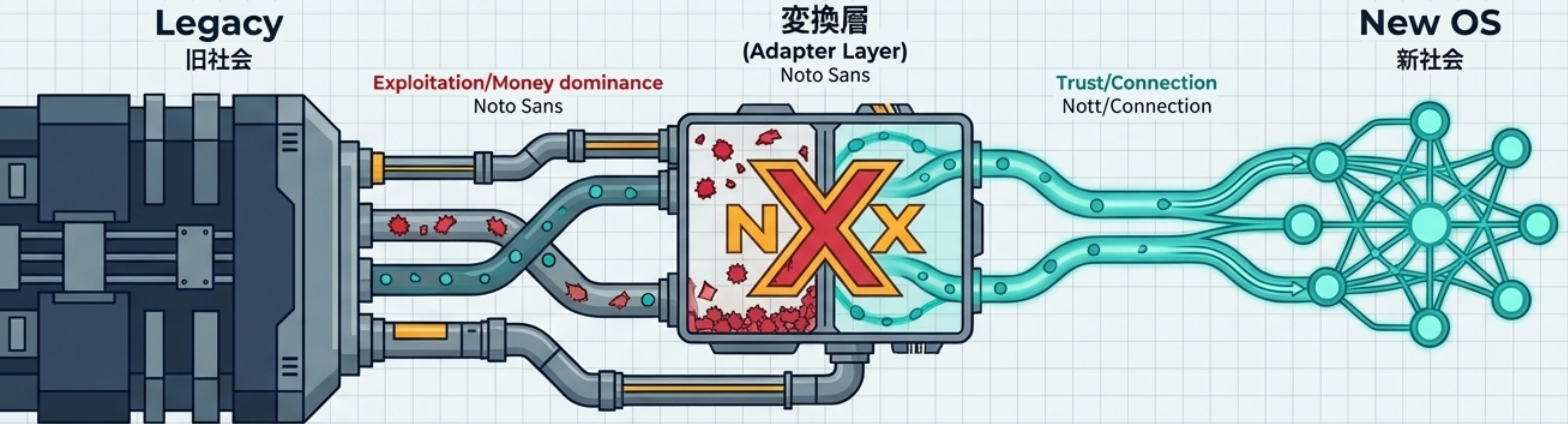
公開監査束

Continuous Audit Bundle

指標が閾値を割った場合、システムは自動的に仮説を棄却し、再合意ループへ入る。

デュアル運用期の移行戦略：変換層とNXの限定運用

旧社会から新社会へは、革命ではなく「静かな設計による置換」で移行する。



変換層 (Adapter Layer)

Montserrat (SemiBold)

旧来の貨幣的価格と新しい接続価値を一時的に橋渡しし、旧リソースを新文明の燃料へと変換する。

逃げ道消失設計 (Escape Closure)

Noto Sans

社会の中核（神経系）を接続報酬でのみアクセス可能にし、貨幣による実効支配を空洞化させる。

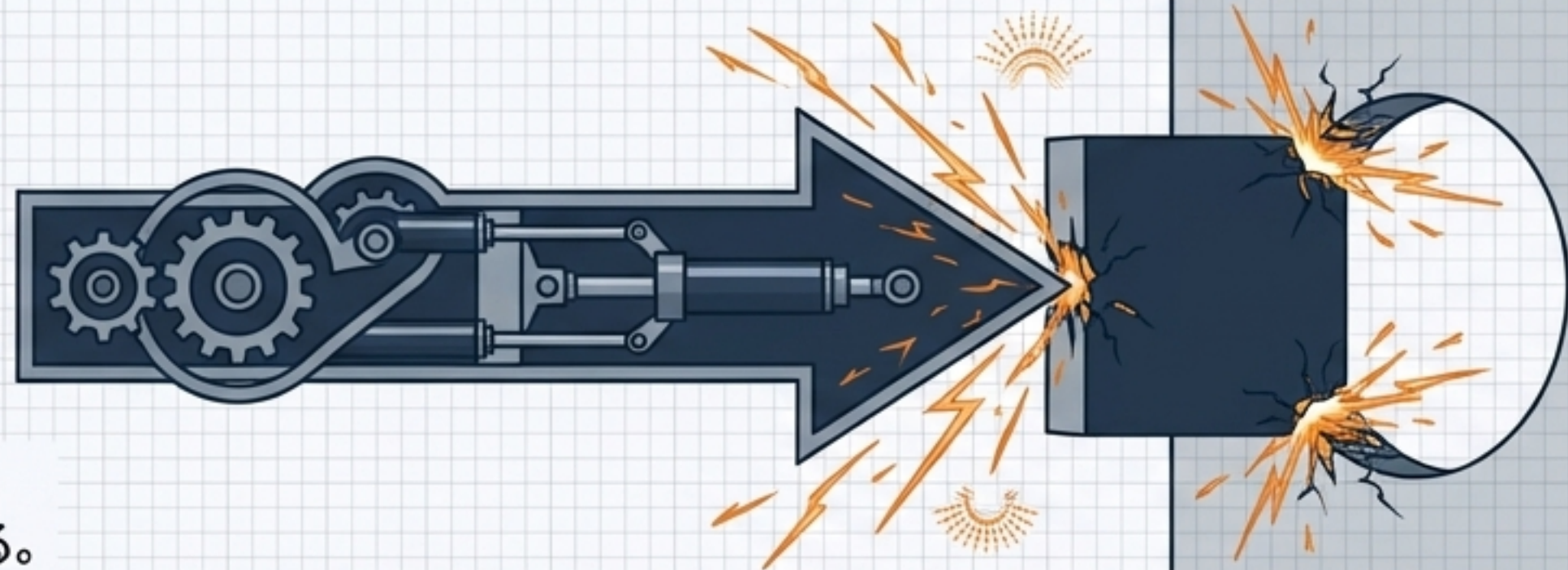
NX (マイナス接続)

Noto Sans

構造を歪める行為に対してのみ適用される限定的な防護措置。制裁を人格ではなく「接続面の物理」にのみ作用させる。

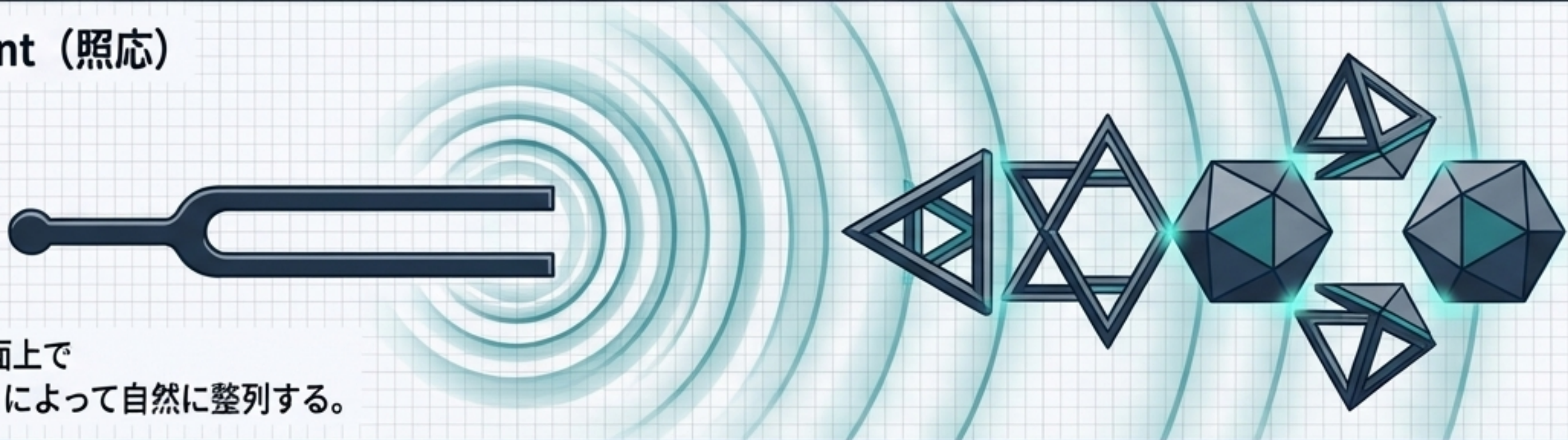
「説得」から「照応」へ：摩擦なき共鳴のアーキテクチャ

Persuasion (説得)



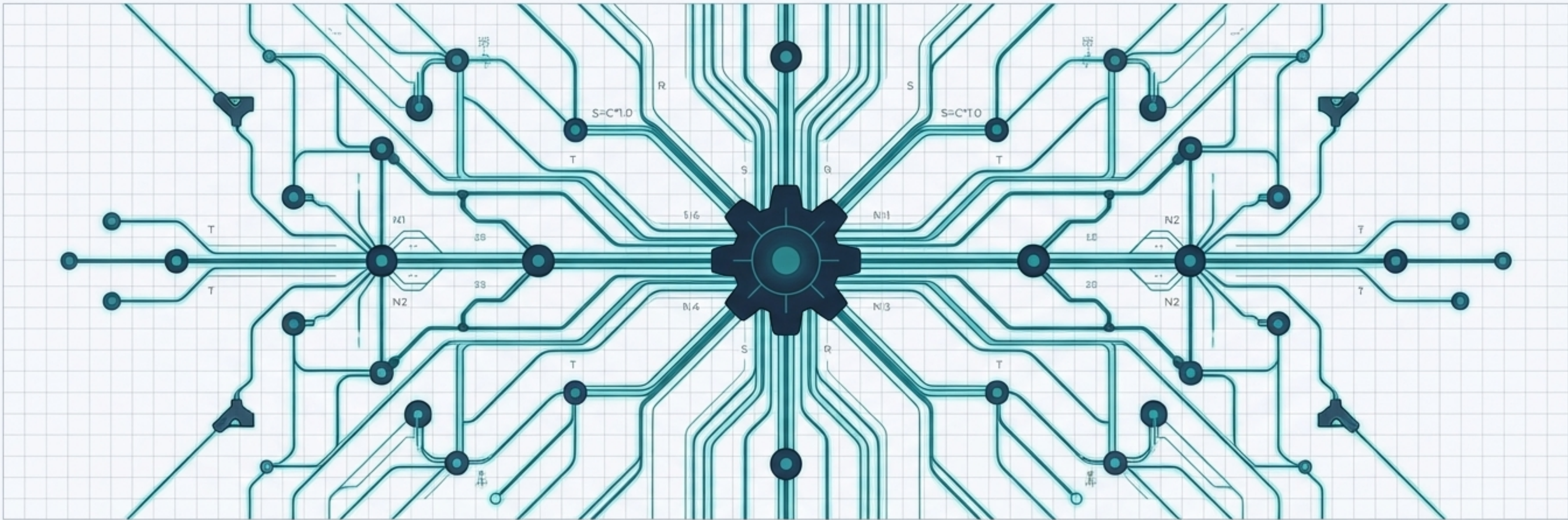
説得は他者の構造を単線化し、可逆性を奪う破壊的操作である。

Attunement (照応)



自他が同じ図面上で「機能と条件」によって自然に整列する。

AI時代において、説得構造の温存は人類の自由意思の停止を招く。
必要なのは、他者をコントロールする力ではなく、安全で可逆的な接続を可能にする「照応 (Attunement)」の設計である。



安全とは抑圧の同義ではない。探索自由度を守るための設計である。

摩擦は排除すべき障害ではなく、
私たちが未来を設計し、共鳴するための「エネルギー」である。

間値で境界を引き、
沈黙で呼吸を整え、
可逆性で探索の勇気を守る。

言葉を持たない静かな構造 (OS) こそが、
AIと人間が共に生きる、次なる文明を支えていく。